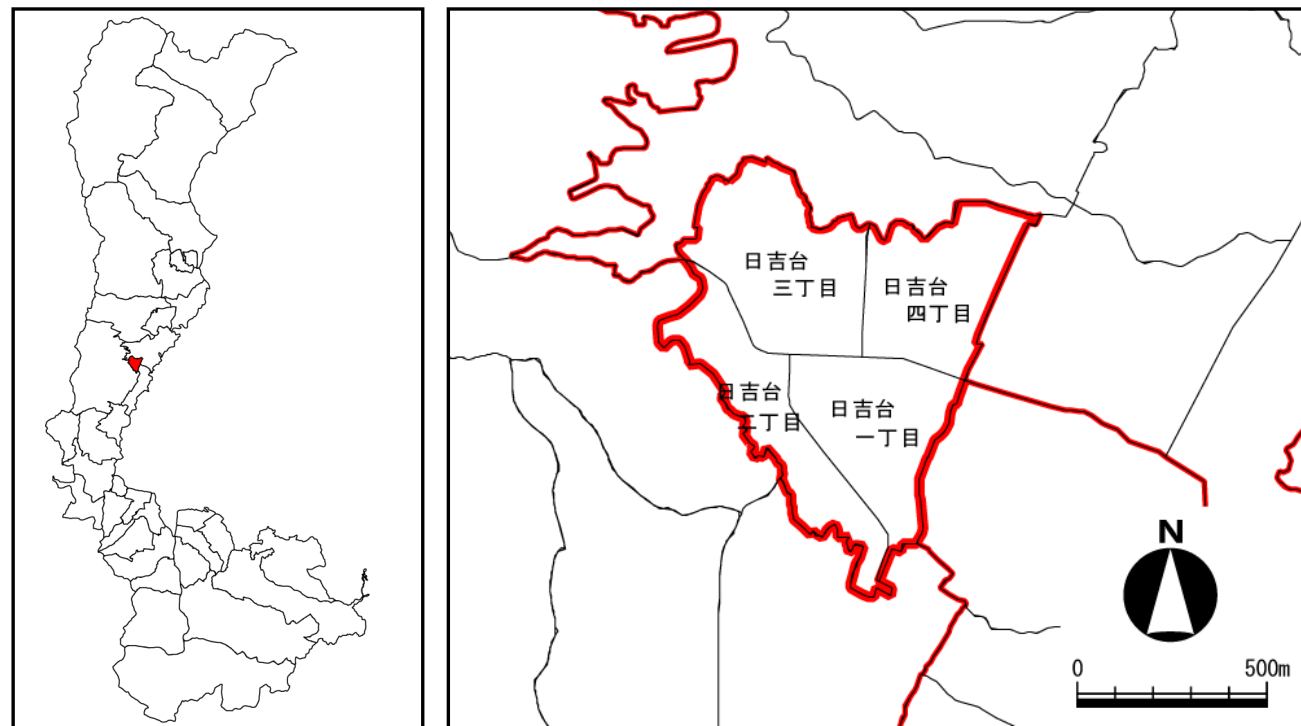


■ 学区の概況



<町丁名>

日吉台一丁目、日吉台二丁目、日吉台三丁目、日吉台四丁目

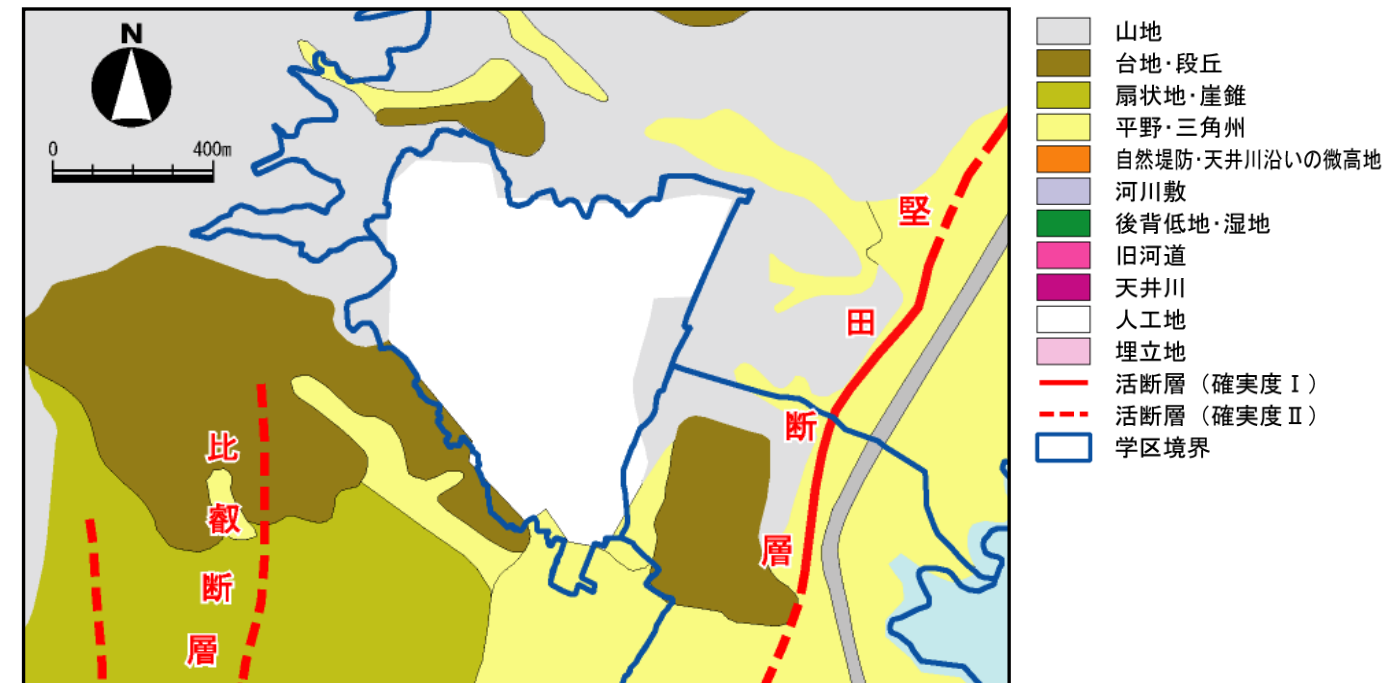
(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

日吉台学区は、昭和 60 年 4 月に新たに住宅開発されたニュータウンとして設立された学区であり、新たな文化が育まれている。

本学区一帯は堅田丘陵であることから高台となっており、琵琶湖を望む景観は素晴らしく、自然にも恵まれている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 日吉台学区は本来、北部が丘陵と台地・段丘、南部は扇状地性の低地であったが、宅地化にともない大規模に改変された人工地である。
- 湖西地域の坂本・日吉台地域から石山地域にかけて、扇状地が山に沿って帯状に連続的に分布している。扇状地は、山地から低地に土砂がもたらされることによって形成される地形である。湖西地域では、山地から湖までの距離が短いため、小規模な河川が多く分布しており、扇状地も小規模なものが形成されている。こうした扇状地は複合扇状地と呼ばれる。日吉台地域よりも北の地域には扇状地が分布しないが、これは山地の前面に堅田丘陵があるため、山地の土砂が低地に供給されないためである。

<地質の特徴>

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
日吉台一丁目	63.6	58.5	70.1	38.3
日吉台二丁目	59.2	59.9	65.2	45.0
日吉台三丁目	65.8	67.7	57.4	60.7
日吉台四丁目	66.0	68.3	51.7	40.0
学区平均	63.7	63.9	60.8	46.2
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 63.7 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 63.9% で市平均の 93.9% を大きく下回り、市内で最も低い。
- 木造率は、日吉台一丁目 が 70.1% で最も高く、日吉台四丁目 が 51.7% で最も低い。学区平均は 60.8% で市平均 72.7% を下回り、市内で 4 番目に低い。
- 旧耐震木造建物割合は、日吉台三丁目 が 60.7% で最も高く、日吉台一丁目 が 38.3% で最も低い。学区平均は 46.2% で市平均 40.3% より高い。

■ 人口の状況

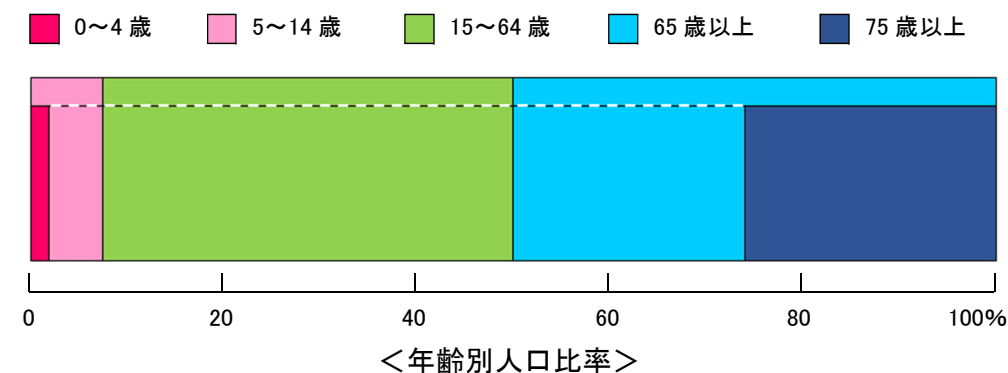
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	3,652	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	69	人	学区人口に対する割合	1.9	1
年齢別 (5~14 歳)	200	人	学区人口に対する割合	5.5	1
年齢別 (15~64 歳)	1,552	人	学区人口に対する割合	42.5	1
年齢別 (65 歳以上)	1,831	人	学区人口に対する割合	50.1	1
年齢別 (75 歳以上)	951	人	学区人口に対する割合	26.0	1
世帯数	1,715	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		—	2
要介護認定者	308	人	学区人口に対する割合	8.4	3
身体障害者 (要配慮者)	54	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者 (要配慮者)	8	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	22	人	学区人口に対する割合	0.6	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区全域が人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 人口は学区全域にわたって分布している。
- 高齢者 (65 歳以上) は 1831 人、乳幼児 (0~4 歳) は 69 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 50.1%、1.9% である。
- 乳幼児の学区人口は、市内で 5 番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 308 人 (8.4%)、身体障害者 (要配慮者) は 54 人 (1.5%)、知的障害者 (要配慮者) は 8 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 22 人 (0.6%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	1 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	3 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	14 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <small>(注1)</small>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	1 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	0 m ²	6
(0.5m~1.0m)	0 m ²	6
(1.0m~2.0m)	0 m ²	6
(2.0m~)	0 m ²	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 日吉台学区の最大の特徴は、学区面積の全域が地すべり防止区域に指定されていることである。
- 急傾斜地崩壊危険箇所や土石流危険渓流の影響範囲にも指定されていることから、豪雨などの場合には厳重な警戒が必要である。また地震時には、2次災害が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	日吉台小学校グラウンド	○	○	○		日吉台三丁目 33-3
	日吉台至明こども園グラウンド	○	○	○		日吉台三丁目 33-2
	日吉台第9公園	○	○	○		日吉台一丁目 14
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	日吉台市民センター	○	○	○		日吉台一丁目 15-1
	日吉台小学校体育館	○	○	○		日吉台三丁目 33-3
指定避難所	日吉台至明こども園	—				日吉台三丁目 33-2

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
日吉台市民センター	日吉台一丁目 15-1	579-4518

<警察 110>

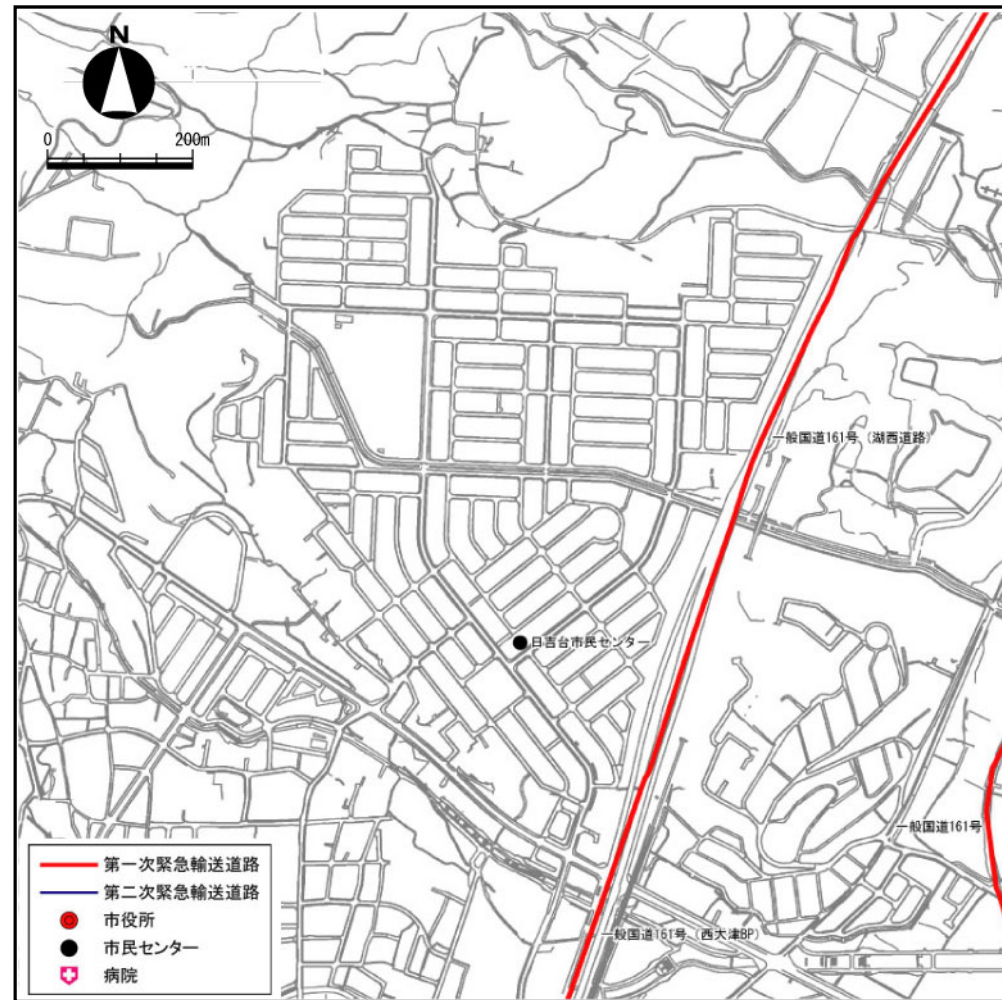
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
西分署	坂本三丁目 27-33	579-0119
日吉台分団	日吉台一丁目 9-3	578-6183



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	1,754	4,689	754	409	959	23	8	11	47	17	22	2	1	1
ケース2	1,754	4,689	866	391	1,062	30	11	14	47	17	22	2	1	1
ケース3	1,754	4,689	537	446	761	12	4	6	47	17	22	2	1	1

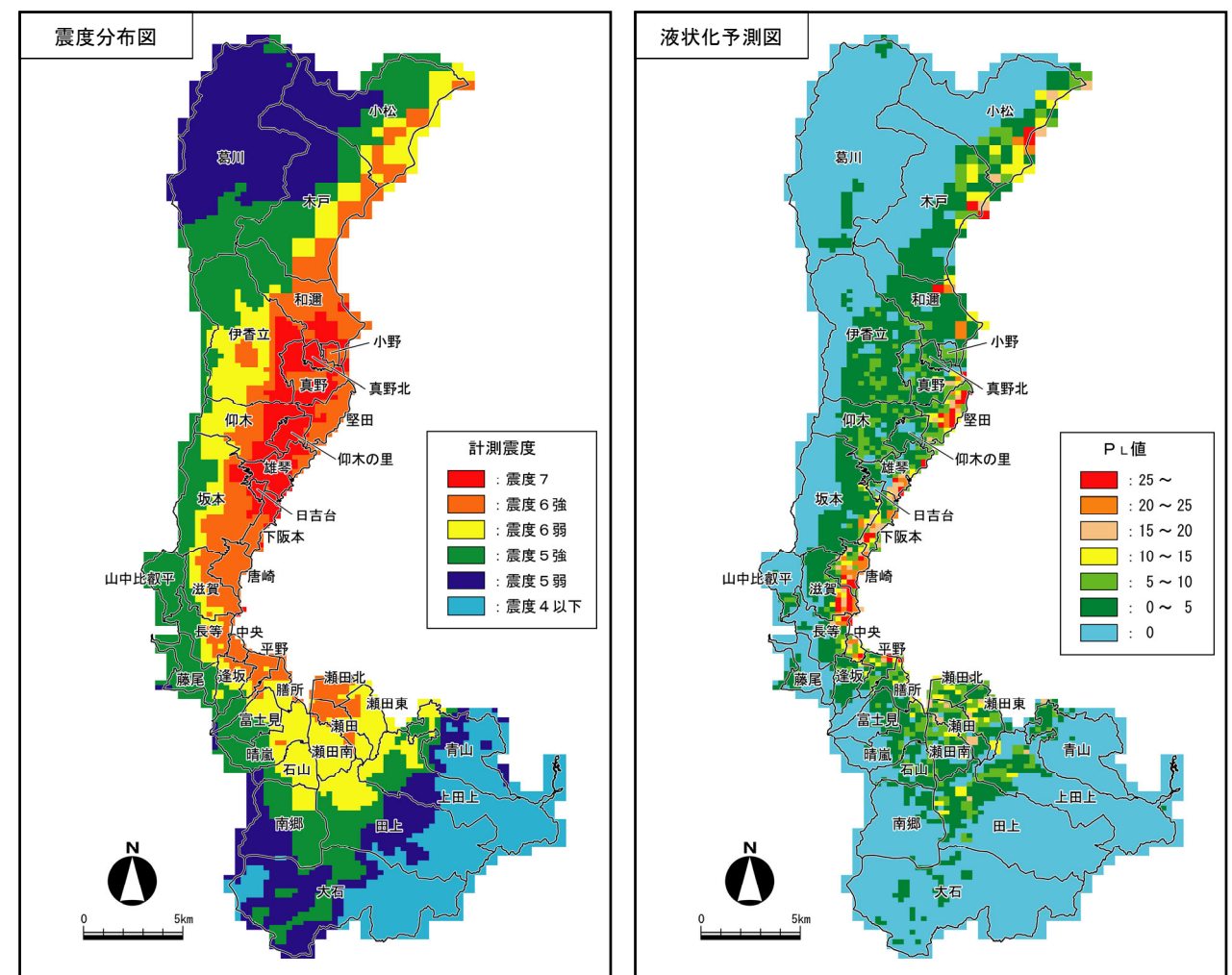
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	1	2	902
ケース2	1	2	2	974
ケース3	0	1	1	763

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

